

Symphony

TOKYO SYMPHONY ORCHESTRA MONTHLY CONCERT BROCHURE

2025
NOVEMBER

Special
Concert

Sat. 15th November

No. 144

Sun. 16th November
Niigata Subscription Concert

No. 736

Sat. 22nd November
Subscription Concert

11



TOKYO
SYMPHONY
ORCHESTRA

Jonathan Nott, Music Director



TOKYO SYMPHONY ORCHESTRA

Jonathan Nott, Music Director

音楽監督	ジョナサン・ノット
桂冠指揮者	ユベール・スターン
正指揮者	原田慶太楼
名誉客演指揮者	大友直人
永久名誉音楽監督	秋山和慶 ◆
永久名誉指揮者	アルヴィド・ヤンソンス ◆
	上田 仁 ◆
	遠山信二 ◆
名誉コンサートマスター	大谷康子

第1コンサートマスター	小川キティンブレブ
	景山昌太郎
	小林吉成
コンサートマスター	田尻 順
	吉江美桜*

会 長	澤田秀雄
理事長	岡崎哲也
副理事長	平澤 創
	依田 異
専務理事	廣岡克隆
理 事	阿部武彦 辻 敏
	池辺晋一郎 永山 治
	伊藤美樹 夏野 剛
	大橋 博 南部靖之
	コシジュンコ 福川伸次
	菅谷貴子 増岡聡一郎
	竹中平蔵 森 京子
監 事	寺西基之
	渡邊芳樹
評議員長	梅沢一彦
評議員	穴水 孝 金山茂人
	鷲海望明 星 久人
	片山泰輔 芳野まい
	加藤英輔
最高顧問	金山茂人
特別顧問	飯島延浩 福田紀彦
	草壁悟朗

1st Violins

○木村正貴
○堀内幸子
○森岡ゆりあ
小川敦子
立岡百合恵
土屋杏子
中村楓子
水谷有里
吉川万理

2nd Violins

○清水泰明
○服部亜矢子
○加藤まな
○福留史純
河根あずさ
小山あずさ
鈴木浩司
辻田薫り
阿部貢真
坂井みどり
吉田みのり*

Violas

○青木篤子
○武生直子
○西村真紀
○多井千洋
○山廣みほ
新井瑞穂
小西広興
鈴木まり奈

Cellos

☆伊藤文嗣
○川井真由美
内山剛博
笠江慶行 ●
樋口泰世
福岡茉莉子
渡邊ゆかり

Double Bases

○助川 龍
○コーディ
ローズブーム
○北村一平
○久松ちず
安田修平
渡邊淳子
内岡沙月 *

Flutes

○相澤政宏
○竹山 愛

Flute & Piccolo

濱崎麻里子

Oboes

○荒 給理子
○荒木良太
浦脇健太

Oboe & English horn

最上峰行

Clarinets

○エマニュエル・ヌヴー
○吉野亜希菜
近藤千花子
務川広貴*

Bassoons

○福士マリ子
○福井 蔵
坂井由佳
前関祐紀

Horns

○上間善之
白井有琳
藤田麻理絵

Trumpets

○澤田真人
○ローリー・ディラン
野沢岳史 ●
松山 萌

Trombones

○大馬直人
○鳥塚心輔
住川佳祐

Bass Trombone

藤井良太

Tuba

近藤陽一

Timpani & Percussions

○清水 太
○山村雄大
武山芳史
網川淳美

Harp

渡辺沙羅

Librarians

林 知也
加藤幸子

Stage Managers

西岡理佐
山本 聡

楽団員

井伊 準 ◆

楽団長

廣岡克隆

編成局シニアディレクター

藤原 真

編成局パーソンネلمانージャー

謝名元 民

楽団委員

小西広興 (議長)
浦脇健太 (書記)
清水 太
鈴木浩司
網川淳美
最上峰行

事務局長

辻 敏

事務局

□高瀬 緑
市川萌都
伊藤瑛海
榎 日向
小川博司
桐原美砂
長久保宏太朗
三橋真琴
山田道子
■梶川純子
藤山保子*
山本未央子*

名誉団友

深江泰輔 ◆
三木晴雄 ◆

団 友

天野佳和 篠崎 隆
安藤史子 菅野明彦
池田 肇 杉浦直基
石川陽依世 鈴木一輝
今村和弘 島根敦之
岩澤淳子 高野成之
上原規照 武田英昭
上原未利 田中興輔
内田彬雄 千村雅信
内田乃俐子 十亀正司
手嶋 表 豊山 悟
梅田 学 永井聖乃
大槻雅人 中塚和良
大塚正昭 中塚 智
大塚展男 新澤義典
大和田浩明 大和田ルース
大和田ルース 西脇秀治
小川ひさ子 野村麻理
萩野 昇 馬場隆弘
奥田昌史 原田美保子
首川健二 日野 森
加藤仁美 ペアンチ
佐原 誠 ボーマン
甲斐さち 前田健一郎
加藤信吾 松崎里絵
金澤 茂 丸山正昭
久保田一穂 三浦正信
熊谷仁士 宮原祐子
廣原亮司 宮本直樹
小林照雄 宮本 睦
小林利彰 森みさ子
小林奈子 諸橋健久
阪本正彦 渡辺 功
佐川聖二 渡辺哲郎
佐々木真 渡辺裕子
塩谷しずが

【ハープ寄贈:環境ステーション株式会社】

☆ソロ首席奏者 ■客演首席奏者 ◎首席奏者 ○ファオシュビラー ●インスペクター
□部長 □シニアディレクター *研究員・準事務局員 ◆故人

演奏会でのお願い

Concert Manner Guide



チケットに記載された 座席でご鑑賞ください

チケットに記載されている座席番号にのみ有効です。座席移動はご遠慮ください。

Please be seated at the seat number designated on your ticket.



開演前に電子機器の 電源はOFFに

マナーモードにしても振動する音が響きますので、電源は必ず切るようにしましょう。

Switch OFF your mobile telephones, wristwatch alarms and all other noise-emitting electronic devices before the performance begins.



補聴器の確認を

ご使用のお客様は、きちんと装着されているか今一度確かめください。

For our guests who wear hearing aid devices, please check that your device is suitably set before the performance begins.



周囲の視界を遮るような 行為はやめましょう

身を乗り出しての鑑賞や、つばの広い／高さのある帽子は脱いでご鑑賞ください。リズムをとる行為もおやめください。

Please refrain from wearing hats or rhythmically swaying in a way which could disturb or obstruct the view of those seated near you.



開演後の入場を 制限させていただきます

開演後のご入場は制限させていただきます。

You will not be permitted to enter the concert hall during a performance.



演奏中の飲食は ご遠慮ください

Refrain from eating and drinking during the performance.



演奏中はお静かに

手荷物につけている鈴やビニール袋等は音を立てないようにご注意ください。演奏中の私語、プログラムやスコア等紙類をめくる音、かばんのチャック等をさわる音も思っている以上に場内に響きます。

Please be silent during the performance.



咳、くしゃみをする際は ハンカチで押さえましょう

ハンカチをあてがうことで音量はかなり軽減されます。

Please use a handkerchief to help suppress the noise from any coughing or sneezing.



曲の余韻も 演奏のうちです

音が消えゆく余韻を十分に感じてから拍手をお送りください。

The lingering sounds and moments are part of the performance. Please hold your applause or shouting your appreciation until the actual end of the performance.



カーテンコールを除いて、ホール内での録音・録画・写真撮影は禁止です

終演後のカーテンコールの撮影は、自席にご着席のまま、周りのお客様へご配慮いただきますようお願いいたします。

※前半終了時、アンコール演奏中は撮影いただけません。

※スマートフォン、携帯電話、コンパクトデジタルカメラ以外の撮影、自撮り棒の使用、フラッシュの使用、

目線より高い位置での撮影はご遠慮ください。

Photography, filming and recording are prohibited, but it is permitted to film the curtain call after the concert. Photography is not permitted at the end of the first half or during encore performances. Please refrain from taking pictures with cameras other than smartphones and mobile phones, using selfie sticks, using flash, and taking pictures at eye level or higher.

11/15 SAT. 16 SUN.

特別演奏会 ラヴェル：歌劇「子どもと魔法」

2025年11月15日(土) 14:00 東京オペラシティコンサートホール

Special Concert RAVEL: L'Enfant et les Sortilèges

Sat. 15th November 2025, 14:00 Tokyo Opera City Concert Hall

第144回 新潟定期演奏会

2025年11月16日(日) 17:00 りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館 コンサートホール

Niigata Subscription Concert No.144

Sun. 16th November 2025, 17:00 Ryutopia Concert Hall

ジョナサン・ノット [指揮]

小泉詠子 [子ども]

加納悦子 [お母さん、中国茶碗、とんぼ]

加藤宏隆 [肘掛椅子、木]

近藤圭 [柱時計、雄猫]

鶴木絵里 [安楽椅子、羊飼いの娘、ふくろう、こうもり]

三宅理恵 [火、お姫様、夜鳴き鷺]

金子美香 [羊飼いの少年、牝猫、りす]

糸賀修平 [ティーポット、小さな老人、雨蛙]

二期会合唱団 [合唱] (11/15)

にいがた東響コーラス [合唱] (11/16)

キハラ良尚 [合唱指揮・指導]

駒井ゆり子 [合唱指揮・指導] (11/16)

景山昌太郎 [コンサートマスター]

字幕操作: Zimakuプラス

原訳: 和田ひでき

日本語字幕: 増田恵子

Jonathan NOTT, Conductor

KOIZUMI Eiko, L'Enfant

KANO Etsuko, Maman / La Tasse Chinoise / La Libellule

KATO Hirotaka, Le Fauteuil / Un Arbre

KONDO Kei, L'Horloge Comtois / Le Chat

UNOKI Eri,

La Bergère / Une Pastourelle / La Chouette / La Chauve-Souris

MIYAKE Rie, Le Feu / La Princesse / Le Rossignol

KANEKO Mika, Un Pâtre / La Chatte / L'Écureuil

ITOGA Shuhei, La Thēière, Le Petit Vieillard / La Rainette

Nikikai Chorus Group, Chorus (11/15)

Niigata Tokyo Symphony Chorus, Chorus (11/16)

KIHARA Yoshinao, Chorusmaster

KOMAI Yuriko, Chorusmaster (11/16)

KAGEYAMA Shotaro, Concertmaster

Subtitles operation: Zimaku Plus

Translation of the Libretto: WADA Hideki

Japanese Subtitles: MASUDA Keiko

ドビュッシー：「夜想曲」よりシレーヌ(12')

デュリュフレ：3つの舞曲 op.6(25')

I. ディヴェルティスマン III. タンブラン

II. ダンス・ラント

休憩(20')

ラヴェル：歌劇「子どもと魔法」

(演奏会形式/フランス語上演/日本語字幕付き)(45')

第1部 屋下がり、ノルマンディーの家

第2部 夜の庭

DEBUSSY: Sirènes from 'Nocturnes' (12')

DURUFLÉ: 3 Danses, op. 6 (25')

I. Divertissement

III. Tambourin

II. Danse lente

Intermission(20')

RAVEL: L'Enfant et les Sortilèges

(Concert Style, Sung in French with Japanese subtitle) (45')

Part1: The House

Part2: The Garden

●主催/公益財団法人東京交響楽団(11/15)、公益財団法人新潟市芸術文化振興財団、TeNYテレビ新潟(11/16)

●助成/令和7年度 文化庁 劇場・音楽堂等における子供舞台芸術鑑賞体験支援事業(11/15)

文化庁文化芸術振興費補助金(劇場・音楽堂等機能強化推進事業) | 独立行政法人日本芸術文化振興会(11/16)

●後援/ブリティッシュ・カウンシル、在日スイス大使館(11/15)

新潟定期演奏会は、新潟市からの補助金の交付を受けて実施しています。



楽曲解説はP.9をご覧ください

Jonathan



Jonathan Nott

Conductor

ジョナサン・ノット

〔指揮〕 Music Director 音楽監督

東京交響楽団第3代音楽監督。

イギリス生まれ。かつてボーイ・ソプラノ・ソロ(ルイ・フレモー指揮バーミンガム市交響楽団)、テノール歌手(ケンブリッジ大学)として活動し、王立ノーザン音楽大学でオペラの歌唱法を学んだ。ロンドンの研修所「ナショナル・オペラ・スタジオ」にコレペティートルとして所属中、英国人オペラ指揮者デヴィッド・パリーのもとで指揮法を学ぶ。その後フランクフルトとヴィースバーデンの歌劇場で指揮者としてのキャリアをスタートし、ルツェルン響首席指揮者兼ルツェルン劇場音楽監督、アンサンブル・アンテルコンタンポラン音楽監督、バンベルク響首席指揮者を経て、2017年よりスイス・ロマンド管音楽監督も務める。抜群のプログラミングセンスと古典から現代曲まで幅広いレパートリーで、世界の主要オーケストラ・音楽祭に客演。2010年バンベルク響とのCDが、世界で権威ある仏Midem音楽賞最優秀交響曲・管弦楽作品部門賞受賞。2009年バイエルン文化賞受賞。2016年バンベルク大聖堂にて大司教より功労勲章を授与。東響とともに2020年「ミュージック・ペンクラブ音楽賞(オペラ・オーケストラ部門)」を、音楽の友誌「コンサート・ベストテン」、毎日クラシックナビ「公演ベスト10」において、R.シュトラウス・コンサートオペラシリーズ《サロメ》《エレクトラ》をベストコンサートに導く。レコーディング活動でも多彩な才能を発揮し、ウィーン・フィルやベルリン・フィルとの録音のほか、当団とは、これまでマラー(第1・5・6番)、ブルックナー(第1・2・4・5・7・8・9番)、チャイコフスキー(第3・4番)などを録音。最新盤は、『ブルックナー:交響曲第8番』(EXTON/OCTAVIAレーベル、2025年11月)。

2026/27シーズンからスペイン・バルセロナのリセウ大劇場音楽監督に就任する。

With his immense charisma and inspired programming drawing on a symphonic repertoire that extends from Schubert and Bruckner to Mahler and Shostakovich, and to the very edge of creation in the world of contemporary music, conductor Jonathan Nott shares his musical and human experience at the highest level. Jonathan Nott has been Music Director of the Tokyo Symphony Orchestra since 2014. Together with the Tokyo Symphony Orchestra, he led 'Elektra' in concert style to the best concert in the 'Concert Top Ten' by Ongaku no Tomo Magazine and 'Salome' to the 'Best 10 Performances' by Mainichi Classic Navi as well as the Music Pen Club Music Prize in 2020. He began his career at the opera houses in Frankfurt and Wiesbaden where he conducted all major works of the repertoire including Wagner's complete Ring cycle. Jonathan Nott has an extensive and eclectic catalog of highly acclaimed recordings including works by Mahler, Bruckner, Tchaikovsky and Shostakovich with the Tokyo Symphony Orchestra on Octavia Records. From September 2026, he will become the Musical Director of the Liceu Barcelona Opera.

11/15 SAT. 16 SUN.

KOIZUMI Eiko

L'Enfant
Mezzo soprano

(子ども)

小泉詠子

[メゾソプラノ]



東京藝術大学大学院博士課程修了、博士号取得。文化庁在外研修員としてイタリアにて研鑽を積む。新国立劇場「魔笛」侍女II、「ボリス・ゴドゥノフ」フョードル、二期会「ノルマ」アダルギーザ等出演。24年二期会「蝶々夫人」スズキ、「コジ・ファン・トゥッテ」ドラベッラに続けて出演、好評を博した。ベートーヴェン「ミサ・ソレムニス」、モーツァルト「レクイエム」「大ミサ曲」等宗教曲や歌曲の分野でも活躍。25年12月二期会「ファウストの劫罰」マルグリットに出演予定。第15回岩城宏之音楽賞受賞。東京藝術大学非常勤講師。二期会会員

KANO Etsuko

Maman/La Tasse
Chinoise/
La Libellule
Mezzo soprano(お母さん、
中国茶碗、とんぼ)

加納悦子

[メゾソプラノ]



東京藝術大学大学院修了後、ケルン音楽大学にて学ぶ。ケルン市立歌劇場と専属契約し、40以上の演目に出演。シュトゥットガルト州立劇場やフランドル・オペラ等欧州各地で活躍。国内でも、びわ湖ホール「ばらの騎士」オクタヴィアン、二期会「ホフマン物語」ニクラウス/ミューズ、C.デュトワ指揮「サロメ」ヘロディアス、新国立劇場「ジュリオ・チェザレ」コルネーリア等出演。オーケストラ作品のソリストとして、また、ベルク、シェーンベルク等のドイツ歌曲においても高い評価を得ている。第70回芸術選奨文部科学大臣賞受賞。二期会会員

KATO Hirotaka

Le Fauteuil/
Un Arbre
Bass

(時掛椅子、木)

加藤宏隆

[バス]



東京藝術大学卒業。ジョーンズ・ホプキンス大学ピーボディ音楽院およびインディアナ大学ジェイコブズ音楽院修了。二期会「パルジファル」グルネマンツ、C.ミョンファン指揮「ファルスタッフ」ピストーラ、日生劇場「連隊の娘」オルテンシウス、S.ヴァイグレ指揮「ヴォツェック」第一の徒弟職人等に出演。パッハ「口短調ミサ」、ベートーヴェン「ミサ・ソレムニス」等宗教音楽の分野にも力を入れており、パッハ・コレギウム・ジャパン音楽メンバーとしても多数出演している。25年12月二期会「ファウストの劫罰」ブランドルに出演予定。二期会会員

KONDO Kei

L'Horloge Comtois/
Le Chat
Baritone

(柱時計、雄猫)

近藤 圭

[バリトン]



国立音楽大学大学院首席修了。ハンブルク音楽院修了。小澤征爾指揮「子供と魔法」柱時計、「カルメン」ダンカイロ、新国立劇場「魔笛」パパゲノ、「夏の夜の夢」ディミートリアス、「夢遊病の女」アレッシオ、同劇場および兵庫芸文「ドン・ジョヴァンニ」マゼット、日生劇場「ラ・ボエーム」シヨナール、二期会「フィガロの結婚」フィガロ、東京春祭「子どものためのワーグナー」等多数出演。また、ヘンデル「メサイア」、モーツァルト「レクイエム」、フォーレ「レクイエム」等のコンサート・ソリストとしても活躍している。二期会会員

UNOKI Eri

La Bergère/
Une Pastourelle/
La Chouette/
La Chauve-Souris
Soprano

(安楽椅子、羊飼いの娘、
ふくろう、こうもり)

鵜木絵里

[ソプラノ]



©Yoshinobu Fukaya

東京藝術大学大学院修了。イタリア政府給費生としてミラノにて研鑽を積む。マンチネッリ劇場「ファルスタッフ」ナンネッタ、二期会「コジ・ファン・トゥッテ」デスピーナ、「ホフマン物語」オランピア、新国立劇場「魔笛」パパゲーナ、神奈川県民ホールおよび日生劇場「ヘンゼルとグレーテル」グレーテル等出演。親子向けコンサートでも定評があり、全国各地でアウトリーチやコンサートを展開、幅広く活躍している。ソニー音楽財団「こどものためのクラシック」登録アーティスト。桐朋学園大学、洗足学園音楽大学非常勤講師。二期会会員

MIYAKE Rie

Le Feu/
La Princesse/
Le Rossignol
Soprano

(火、お姫様、夜鳴き鶯)

三宅理恵

[ソプラノ]



東京音楽大学大学院首席修了後、渡米。バード音楽院修士課程修了。P.ヤルヴィ指揮「ドン・ジョヴァンニ」「ツェルリーナ」、新国立劇場「夜鳴きうぐいす」タイトルロール、「スーパーエンジェル」エリカ、「魔笛」パパゲーナ、「オルフェオとエウリディーチェ」アモレー、「子どもと魔法」火／お姫様／夜鳴き鶯、C.ミョンファン指揮「ファルスタッフ」ナンネッタ等で活躍。また、コンサートでも、F.ルイーダ指揮サイトウ・キネン・オーケストラ「復活」、小澤征爾指揮水戸室内管「第九」等多数出演している。東京音楽大学非常勤講師。二期会会員

KANEKO Mika

Un Pâtre/
La Chatte/
L'Écureuil
Mezzo soprano

(羊飼いの少年、
牝猫、リス)

金子美香

[メゾソプラノ]



東京音楽大学大学院およびザルツブルク・モーツァルトウム音楽院修了。新国立劇場「ジュリオ・チェザレ」セスト、「ボリス・ゴドゥノフ」乳母、東京春祭ワーグナー・シリーズ、東京交響楽団「エレクトラ」等出演。18年バイロイト音楽祭 P.ドミンゴ指揮「ワルキューレ」、25年には台湾フィルハーモニックに招聘され、準・メルクル指揮「さまよえるオランダ人」マリーに出演。モーツァルトやマーラー等コンサートでも主要オーケストラと共演、歌曲の分野においても高い評価を得ている。平成24年度山口県芸術文化振興奨励賞受賞。二期会会員

ITOGA Shuhei

La Thêière,
Le Petit Vieillard/
La Rainette
Tenor

(ティーポット、
小さな老人、雨蛙)

糸賀修平

[テノール]



©Taira Tairadate

武蔵野音楽大学大学院修了。イタリアおよびドイツにて研鑽を積む。新国立劇場「ファルスタッフ」「トスカ」「カルメン」等の他、「ピーター・グライムズ」では急遽ボブ・ボウルズにて出演、好評を博す。さらに、C.ミョンファン指揮「蝶々夫人」ゴロー、ロームシアター京都「フィデリオ」ヤッキーノ、二期会「こうもり」アルフレード、「コジ・ファン・トゥッテ」フェランド、セイジ・オザワ松本フェスティバル「椿姫」アルフレード等出演。地域創造公共ホール音楽活性化事業(おんかつ)登録アーティスト。東京藝術大学非常勤講師。二期会会員

11/15 SAT. 16 SUN.

KIHARA Yoshinao, Chorusmaster

キハラ良尚 [合唱指揮・指導]



公式ウェブサイト



指揮者・作曲家。Tokyo Cantat第4回若い指揮者のための合唱指揮コンクール優勝。作・編曲作品は、京響、東混、Mozart Singers Japanなどで演奏されている。ポーランド 国立放送響、OEK、ウィーン楽友協会合唱団を指揮。東京混声合唱団常任指揮者(2019~2025)。

KOMAI Yuriko, Chorusmaster

駒井ゆり子 [合唱指揮・指導] (11/16)



東京音楽大学大学院修了。パリにて研鑽を積む。トゥールーズ国際フランス歌曲コンクール最優秀声楽ピアノデュオ賞受賞。サイトウキネンフェスティバルやN響公演にて仏語ディクシオン指導にあっている。文化庁海外派遣研修員(パリ)。二期会会員。桐朋学園大学、同大学院講師。

Nikikai Chorus Group, Chorus

二期会合唱団 [合唱] (11/15)

2022年に創立70周年を迎えた、日本最大の声楽家団体「二期会」を母体とする我が国を代表するプロフェッショナル合唱団。東京二期会オペラ劇場の舞台はもとより、国内の主要オーケストラをはじめ、合唱作品における客演や、各種メディアへの出演などを中心に、長年多岐にわたる活動を展開している。

Soprano

雨笠佳奈
飯嶋幸子
栄 千賀
高橋 桂
久野綾子
廣森 彩
藤原 唯
松本真代

Alto

喜田美紀
櫻井日菜子
中島千香
東 裕子
人見珠代
船越 優
持田温子
山西さや香

Tenor

岡田淳志
小野裕正
新海康仁
手島 英
前橋幸也
宮腰敬一

Bass

押見春喜
岸本 大
栗原 剛
桜井 航
外崎広弥

Niigata Tokyo Symphony Chorus, Chorus

にいがた東響コーラス [合唱] (11/16)

東京交響楽団新潟定期演奏会における合唱付オーケストラ曲への共演を目的に、1998年に発足。これまでに、モーツァルト《レクイエム》《戴冠ミサ》、ベートーヴェン《第九》《ミサ・ソレムニス》、マーラー《千人の交響曲》《復活》、フォーレ《レクイエム》、ブラームス《ドイツ・レクイエム》、オルフ《カルミナ・ブラーナ》、ラヴェル《ダフニスとクロエ》、ベルリオーズ《テ・デウム》、メンデルスゾーン《讃歌》ほか数多くの公演に出演している。

●合唱指揮
キハラ良尚 駒井ゆり子

●ピアノ
梅津幹子 八子真由美
渡部乃亜

●コーラス委員
委員長：漆山律直
副委員長：西島理恵
会計：今成三枝子

●パートリーダー
Sop. 横田千恵子 入西宏子
Alt. 岡橋麻衣 佐藤文子
西山益代
Ten. 松崎泰治
Bas. 荒井健次

Soprano

秋山敦美
荒川洋子
飯島淳子
飯原美帆
李 玟承
今成三枝子
入西宏子
梅浦素子
太田真理
荻山倫子
片桐直子
川崎ノリ
菊池史子

北 未紗子
小山真理
鈴木やすこ
永井道子
仲野麻子
長谷川さつき
横田千恵子
宮本素子
雨笠佳奈※
飯嶋幸子※
廣森 彩※

Alto

浅井由記
池田玲子
伊藤智美
岡橋麻衣
柏崎 薫
木村貴子
小島美香子
小林由希恵
笹川規子
佐藤照子
佐藤文子
西島理恵
西山益代

林 幸恵
日野久美子
廣河香納子
本間麗美
三好素子
吉田美紀
渡辺菜緒美
喜田美紀※
東 裕子※
持田温子※

Tenor

大野 昇
北 道延
笹川富士雄
清水 仁
田中淳之
田村智朗
松崎泰治
山崎俊雄
新海康仁※
宮腰敬一※

Bass

天野武博
荒井健次
漆山律直
栗川 治
笹川 基
高口和則
田村和豊
津川達雄
永井明彦
早川 徹
諸田哲也
山口光雄

※賛助出演

クロード・ドビュッシー(1862~1918)

ドビュッシー:「夜想曲」よりシレーヌ

私の最初のドビュッシー体験は、「管弦楽のための夜想曲」の第3曲「シレーヌ」だった。

まだオープンリールのテープのころ、父がラジオ放送を録音したものを聴いていたところ、突然この曲が流れてきた。波のようにゆらめくオーケストラに乗って、台詞をともしなわぬ女声合唱が神秘的なメロディを奏でる。何か近未来の都市が出現したかのような衝撃を受けた。

シレーヌは古代ギリシャ神話に登場する半人半鳥の怪物。岩礁に身を潜めて魔性の歌声で航海中の船人を惑わし、破滅に導いたという。幼い私もまさにその魔力の虜になってしまったようだ。

「声を器乐的に扱う」のは、「シレーヌ」が最初ではない。ローマ大賞にともなう2番目の留学作品として書かれた交響組曲「春」も、「唇を閉じて歌う」女性合唱をとまなっている。このとき、ドビュッシー音楽を否定するためにアカデミーによって「印象主義」の概念がもちこまれた。

オーケストラにヴォカリーズを持ち込む手法は、ホルスト「惑星」などでお馴染みだが、1900年当時は斬新だったにちがいない。3曲のうち「雲」「祭り」は1900年12月にラムルー管弦楽団によって初演されたが、「シレーヌ」を含む全曲初演は一年後の1901年10月27日(同じくラムルー管弦楽団)を待たなければならず、なおかつ第3曲は熱狂的な拍手喝采と口笛による野次という正反対の反応をひき起こしたという。

ドビュッシー擁護派で知られる評論家のピエール・ラロも「シレーヌたちの歌以上に柔軟な声の絡み合い、一層洗練された旋律的輪郭、一層優雅で風変わり響き」を賞賛しつつも、その官能性に一種の不安を感じとっている。これに対してドビュッシーは、不健全な芸術などない、自分は「誤って解釈された重苦しい伝統の遺産から音楽を解放しようとしているだけ」だと反論している。

ドビュッシー音楽の魅力のひとつに倍音効果がある。ひとつの音から発生する倍音が、絶妙の配置によって鳴り響く帯となり、漂い、増幅され、流れる。伝統的語法からははずれるが、聴覚的自然には適っているその手法によって、シレーヌたちの妙なる歌声が再現されたといえよう。

青柳いづみこ Text by AOYAGI Izumiko

作曲:1897年~1899年(夜想曲)

初演:1901年10月27日(パリ、カミーユ・シャンヴィヤール指揮、ラムルー管弦楽団)

編成:フルート3、オーボエ2、イングリッシュホルン、クラリネット2、ファゴット3、ホルン4、トランペット3、ハープ2、弦5部、女声合唱

11/15 SAT. 16 SUN.

モーリス・デュリュフレ(1902~1986)

3つの舞曲 op.6

20世紀に生まれた典礼的レクイエムとして名高い「レクイエム」(1941~47)を残したフランスの作曲家・オルガン奏者、モーリス・デュリュフレ(1902~86)は、番号付きの作品を14しか発表していない。1927~47年の20年間に集中的に作曲された(以後デュリュフレの活動は演奏・教育が中心となった)、オルガン曲を多く含むその作品群は精妙な響きにあふれ、淡い色彩と微かな陰影をたたえている。

「3つの舞曲」(1932)は、作曲家デュリュフレにとっての出世作である。パリ音楽院での作曲の師であったポール・デュカは1927年、音楽院を卒業する直前のデュリュフレを知人の作家、エドゥアール・デュジャルダン(1861~1949)に引き合わせた。自作の劇の付随音楽をデュリュフレに依頼したデュジャルダンはしかし、デュリュフレが試みに作曲した短い音楽を聴いて不満を表し、依頼を取り下げしてしまう。それでもその音楽をひとまず仕上げ、デュカに提出したデュリュフレは、これに2曲を追加して3曲からなる組曲を作ることを勧められた。こうして完成された「3つの舞曲」は初演で大きな成功を収め、短期間で再演が重ねられた。ドビュッシー、ラヴェル、デュカに通じる管弦楽法と、若書きらしい快活さ、少数の動機を駆使した循環的で緊密な構成は特筆される。

第1曲「ディヴェルティスマン」(ABACABCのロンド形式)では、瑞々しい響きの序奏を経て、4音の順次下行の動機を含む澁刺とした音楽(A)が始まる。オーボエ、ホルン、フルートが跳躍を含む上行・下行の動機を奏した(B)あと緩やかなセクション(C)となり、Aの動機の変形とBの動機を組み合わせた旋律が奏される。

第2曲「ダンス・ラント(ゆったりとした踊り)」では、神秘的な雰囲気の前奏のあと、オーボエが侘しげな旋律を奏する。弦楽器が第1曲の2つの動機の組み合わせを提示し、オーボエがふたたび先ほどの旋律を歌ったあと、第1曲のBの動機、次いでAの動機にもとづく展開が行われる。その後序奏が回帰する。

第3曲「タンブラン」は、タンブラン(プロヴァンス太鼓)とファゴットによる田舎風の二重奏で始まる。やがてアルトサックスのソロが、第1曲のCで現れていた旋律を提示すると、以後はサックスも加わったまま先ほどとは逆の流れが辿られ、冒頭の二重奏が回帰する。

平野貴俊 Text by HIRANO Takatoshi

作曲:1932年

初演:1936年1月18日シャトレ座(パリ)、ポール・パレー指揮、コロヌ管弦楽団

編成:フルート2、ピッコロ、オーボエ2、イングリッシュホルン、クラリネット2、バスクラリネット、ファゴット2、コントラファゴット、アルトサックス、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ、ティンパニ、シンバル、トライアングル、グロッケンシュピール、大太鼓、小太鼓、プロヴァンス太鼓、ウッドブロック、タンバリン、シロフォン、ハープ2、チェレスタ、弦5部

モーリス・ラヴェル(1875~1937)

歌劇「子どもと魔法」

ラヴェルが自ら「ファンタジー・リリック(幻想オペラ)」と呼ぶ1幕作品である。女性作家コレットがパリ・オペラ座の支配人ジャック・ルーシェの提案を受けてバレエ用台本を先に作成していたこと、当時の舞台芸術のジャンルの境界の薄れや、ラヴェルによる意図的なジャンル崩しから、作中ではいくつものジャンルの音楽からなる歌とバレエと合唱が混ざっている(ミュージカル、ラグタイムなど)。

第1部 屋下がり、ノルマンディーの家 完全4度と5度からなる、気怠そうで調性も定まらないオーボエの旋律で始まる。悪童の6、7才の子どもは、部屋で宿題をしながらず、叱る母の言葉も無視。憂さ晴らしに部屋にいるペットにいたずらをし、物も壊す始末である。暴れ疲れて休もうとすると、肘掛椅子が逃げて安楽椅子と踊り出す。柱時計、ティーポットと中国茶碗、暖炉の炭火、羊飼いの少年、お姫様と、次から次へと現れて子どもを非難したかと思うと、小さな老人は狂った算数をしだす。混乱した子どもは、夜になり現れた愛を楽しむ2匹の猫を追い、場面は庭に変わる。

第2部 夜の庭 弦楽器の空虚5度の静的な和音に、楽器や合唱によるふくろう、虫、雨蛙の鳴き声が重なり、田舎の夜を表現する。庭に見惚れる子どものもとに、木々やトンボ、夜鳴き鶯、こうもりにりすも現れ、更に苦情を言う。愛し合う動物たちを見て自分が孤独であることに気付いた子どもは、寂しく「ママ」と呟く。すると動物たちが彼を攻撃し始める。次第に激化していく中、怪我をして叫び倒れたりすを彼は助け、自身も怪我をして倒れる。これを見た動物たちは彼の優しさを認め、今度は子どもを助けるために、部屋に子どもを運び母に助けを求める。家の窓から光が差し、再び現れたオーボエの旋律はト長調に落ち着いている。子どもは両腕を伸ばして「ママ!」と叫ぶ。

お姫様への子どもの短い歌〈バラの心の君〉の抒情性、続く小さな老人との韻を踏んだ算数問答の喜劇性といった、劇音楽の性格対比も秀逸である。モンテカルロ劇場での初演は成功し、上演が続いた。コレットによる繊細な子どもの感情の揺れ動きのセリフ表現と、ラヴェルによる緻密かつ遊びのある音楽が描き出す夢幻的世界は、100年経った今も人々を魅了し続けている。

小林佳織 Text by KOBAYASHI Kaori

作曲: 1920~1925年

初演: 1925年3月21日モンテカルロ歌劇場(モナコ)

編成: フルート3(ピッコロ持替1)、オーボエ2、イングリッシュホルン、小クラリネット、クラリネット2、バスクラリネット、ファゴット2、コントラファゴット、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ、ティンパニ、小太鼓、大太鼓、シンバル、トライアングル、タムタム、ラチェット、むち、ウッドブロック、アンティークシンバル、スライドホイッスル、ウィンドマシーン、チーズのおろし金、木製の本、シロフォン、ハーブ、ピアノ、チェレスタ、弦5部、混声合唱、独唱8人

11/22 SAT.

第736回 定期演奏会

2025年11月22日(土) 18:00 サントリーホール

Subscription Concert No.736

Sat. 22nd November 2025, 18:00 Suntory Hall

ジョナサン・ノット [指揮]
宮田まゆみ [笙]
小林亘成 [コンサートマスター]

Jonathan NOTT, Conductor
MIYATA Mayumi, Sho
KOBAYASHI Issey, Concertmaster

武満徹:セレモニアル(10')

TAKEMITSU:
Ceremonial – An Autumn Ode – (10')

マーラー:交響曲 第9番 二長調(83')

MAHLER: Symphony No.9 in D major (83')

- I. アンダンテ・コモド
II. ゆるやかなレントラーのテンポで、
ややぎこちなくきわめて粗野に
III. ロンド・ブルレスケ アレグロ・アッサイ、
きわめて反抗的に
IV. アダージョ

- I. Andante comodo
II. Im Tempo eines gemächlichen Ländlers.
Etwas täppisch und sehr derb
III. Rondo-Burleske. Allegro assai, Sehr trotzig
IV. Adagio, Sehr langsam und noch zurückhaltend

- 主催/公益財団法人東京交響楽団
- 助成/文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術総合支援事業(公演創造活動)) | 独立行政法人日本芸術文化振興会
- 後援/在日スイス大使館、ブリティッシュ・カウンシル

本公演には休憩がありません。

ジョナサン・ノットのプロフィールはP5をご覧ください

楽曲解説はP14をご覧ください



文芸春秋
Tokyo Symphony Orchestra



©futaishi tomoki

MIYATA Mayumi

Sho

宮田まゆみ
[笙]

東洋の伝統楽器[笙]を国際的に広めた第一人者。国立音楽大学ピアノ科卒業後、雅楽を学ぶ。古典雅楽はもとより、ジョン・ケージ、武満徹、一柳慧、細川俊夫など現代作品の初演をはじめ、小澤征爾、C.デュトワ、A.プレヴィン、大野和士ほかの指揮のもと国内外のトップオーケストラと数多く共演。加えてヘルムート・ラッヘンマン作曲のオペラ『マッチ売りの少女』への出演、パリの秋芸術祭、ウィーン・モデルンなど各国の音楽祭への出演、東京、ニューヨーク、ミラノ、パリ、ウィーン、ローマ、ロンドンなどでのリサイタルと幅広く活躍している。

2016年に行った『甦る古譜と現代に生きる笙 シリーズⅢ』によって芸術選奨文部科学大臣賞を受賞。これまでに芸術選奨文部大臣新人賞、中島健蔵賞、佐治敬三賞など受賞。2018年秋に紫綬褒章を受章。2021年度国際交流基金賞受賞。伶楽舎音楽監督。国立音楽大学招聘教授。最新CDは中世の古楽譜による調子・入調の全曲を収めた『調子・入調 Shō Infinity』。

Mayumi Miyata is a leading authority on the shō, a free-reed aerophone from Japan's ancient gagaku court music tradition. As one of the first shō players to embrace contemporary Classical music,

Miyata has performed with many of the world's top orchestras and helped expand recognition of the instrument on the international stage.

After graduating from the Kunitachi College of Music with a degree in piano, Miyata started to play gagaku and made her debut at the National Theatre of Japan in 1979. In 1998, Miyata was selected to perform the Japanese national anthem at the opening ceremony of the Nagano Winter Olympics.

In recent years, she has garnered additional acclaim for her performances of John Cage's One (for shō) and the complete repertoire of medieval Chōshi Nyōjō modal preludes.

11/22 SAT.

武満徹(1930~1996)

セレモニアル—秋の歌—

「秋の歌An Autumn Ode」と題された《セレモニアル》は、雅楽の楽器である笙による序奏と後奏をもつ、オーケストラのための小典礼楽である。日本の伝統と深い結びつきをもつ笙の響きが、最初と最後を円環的に結び合わせる。音楽が象徴するように、2014年の音楽監督就任披露公演の幕開けを告げた《セレモニアル》の響きが、最後の定期演奏会となる今回、ふたたびホールに充満する。

1992年、小澤征爾によって創始されたサイトウ・キネン・フェスティバル松本の第1回オープニング作品として委嘱・初演された《セレモニアル》は、1973年秋に書かれた武満の雅楽曲《秋庭歌》の旋律を素材として用いている。《秋庭歌》を作曲する時に、武満は笙の持続が人間の呼吸と結びつき、永遠や無限を暗示する形而上的なものであることを語っている。このとき武満は、「秋庭」とした雅楽の一番どおりの管弦の周囲3箇所、笙を中心とした「木魂群」を配置し、立体的な空気の立ち昇りを音に乗せて演出した。《セレモニアル》では、笙独奏が舞台上で奏でられるのに対し、フルートとオーボエを1対とする3つのペアを、客席の背後にそれぞれなるべく離れて配置するよう指示している。「ミーファ#ーソーラーシード#ーレーミ」という音階(雅楽の平調^{ひょうじょう})の音から作られた《秋庭歌》冒頭の旋律は、《セレモニアル》冒頭の笙の和声の中に溶け込み、オーケストラの楽奏が始まると旋律断片がまるで「木魂」のようにあちこちから聞こえてくる。そして終盤が近づく頃、クラリネット独奏による、《秋庭歌》と同じ調による同じ旋律がはっきりと耳に届く。背後のフルートとオーボエが5度上の調で同じ旋律を「こだま」とすると、その空気は静かに、笙による冒頭と同じ和声の後奏へと溶け込んでいく。

《ノヴェンバー・ステップス》(1967)では、邦楽器である琵琶と尺八を西洋のオーケストラと組み合わせ、互いにはじき合う音の姿を見せた武満は、25年後の《セレモニアル》で、東西の楽器の音が空中で真に混ざり合う音風景を聴かせた。時は移ろえど秋はふたたび巡ってくる。永遠につづく世界の呼吸は、今回どんな音を響かせるだろうか。

安川智子 Text by YASUKAWA Tomoko

作曲: 1992年

初演: 1992年9月5日長野(松本)、宮田まゆみ(笙)、小澤征爾(指揮)、サイトウ・キネン・オーケストラ

編成: 笙独奏、フルート3(ピッコロ持替3)※、オーボエ3※、クラリネット3、バスクラリネット、ファゴット3、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、ヴィヴァフォン、グロッケンシュピール、アンティークシンバル、ハーブ、チェレスタ、弦5部

※客席内で演奏

グスタフ・マーラー(1860~1911)

交響曲 第9番 二長調

「交響曲第9番」は多くの作曲家を悩ませてきた。そこには、ベートーヴェン以降の圧倒的な存在感を放つ先人たちの「第9」と比較される懸念と、彼らのように「第9」の後に創作が進まないのではないかという懸念が二重にあった。グスタフ・マーラーもその例外ではなかったようだ。9作目の交響曲は《大地の歌》と題され、番号は与えられていない。そんな彼が次なる交響曲、第9番の筆を本格的に執ったのは1909年夏のこと。北イタリアはドロミテ地方、トープラッハにて一夏のうちに草稿を書き上げ、翌1910年春、指揮活動の拠点ニューヨークで浄書を完成させた。

アーノルト・シェンベルクは「この作品には、マーラーを代弁者として利用した、もう一人の隠れた作者がいるかのようだ」と述べているが、2つの中間楽章からはまさにそうした印象を受ける。第2楽章ではレントラーやワルツといった民族舞踏が、そして第3楽章では複雑なフーガといった形式が、時に異化され、時に歪曲された形で響く——マーラーと親交のあった指揮者ウィレム・メンゲルベルクは、これらを「とげのある陽気さ」と形容した。対照的に、両端楽章は長大な緩徐楽章であり、そこには痛ましいほどに内面的で親密な世界が広がっている。冒頭楽章は断片的に静かに始まるが、やがてヴァイオリンによる——楽曲全体を貫く動機となる——二度下行のモチーフによって主題が導かれる。3つのテーマが提示されたあと、展開部では激しいクライマックスや金管楽器による重々しい葬送行進曲的な部分が現れるが、再現部を経て、ハープと弦楽器のフラジオレットが織りなす幻想的な響きで閉じられる。終楽章のアダージョでは、回音を特徴とする2つの主題が幾度も交代し、永遠を垣間見るかのような感覚ももたらされよう。しかし最終的に、生命の灯火が静かに消えゆくかのように、音楽は静寂の中へと還ってゆく。

第9番の草稿完成時、マーラーはブルーノ・ワルターに「長らく□にできずにいたことを、ようやく語ることができた」と書き送っている。しかし、自らが音楽に託した内容を耳にすることも、また書きかけの第10番を完成させることも叶わぬまま、マーラーは1911年5月、ウィーンで50歳の生涯を閉じた。初演は翌1912年、ワルター指揮のもとウィーンで行われ、「長らく□にできずにいた」その言葉は作曲者亡き後にようやく響いたのであった。

内藤真帆 Text by NAITO Maho

作曲: 1909~1910年

初演: 1912年6月26日ウィーン、ブルーノ・ワルター指揮、ウィーン・フィル

編成: フルート4、ピッコロ、オーボエ4(イングリッシュホルン持替1)、小クラリネット、クラリネット3、バスクラリネット、ファゴット4(コントラファゴット持替1)、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ、ティンパニ2、大太鼓、小太鼓、トライアングル、シンバル、タムタム、グロッケンシュピール、低い鐘、ハープ2、弦5部

未来へひらかれた音楽

～ジョナサン・ノットのマーラー

文 山田治生(音楽評論家)

2014年4月、ジョナサン・ノットは、東京交響楽団音楽監督就任披露演奏会で、武満徹の「セレモニアル」とマーラーの交響曲第9番を取り上げた。いくらノットがバンベルク交響楽団首席指揮者時代に彼らとマーラーの交響曲全集を録音(注: 2003年から2011年にかけて)していたとはいえ、いきなり、就任披露演奏会での第9番の選曲には驚いた。そして、ノットがそのマーラーの第9番を暗譜で指揮していたことにも驚かされた。また、古典派作品では見慣れていたヴァイオリン群の対向配置(第1ヴァイオリンと第2ヴァイオリンが左右両翼に分

かれる)をマーラーでも採用していることにも意表を衝かれる。そのときのマーラーの第9番は、ひとこと言え、熱い心と冷静な頭脳が一体となった演奏であった。第9番自体がそういう作品だし、オペラと現代音楽をとともに得意とするノットの本質とも一致する。フレーズを新鮮にきっぱりと歌い、マーラーの交響曲のなかで最もポリフォニックなこの作品の特徴をしっかりと浮かび上がらせていた。ドラマティックな表現、最弱音の意味深さ、第4楽章の弦楽器のエスプレッシェヴォ、などなど、非常に感動的な演奏だった。ただ、ノットの指揮が非常に

個性的であるがゆえか、それほど慣れていなかった対向配置ゆえか、指揮者とオーケストラとのコミュニケーションがまだ十分とはいえないところもあった。しかし、それもスタート時ゆえ仕方のないことであつたし、それは時間を追って改善されていった。

その後、ノットと東響は演奏会を重ねることで一体感を増していく。2023年5月に交響曲第6番を取り上げ、マーラーの番号付きの9つすべての交響曲の演奏を完結し、2024年5月には「大地の歌」も演奏した

個人的には、煽ることなくストレートに大曲を表現した第8番(2014年12月)、丁寧で繊細な美が際立った第3番(2015年9月)、高速でギアをチェンジし、即興的に煽り、スリリングに攻めた第7番(2019年11月)、じっくりと歌ったアダージェットで究極の美(=最高の愛情)を描いた第5番(2022年7月)、ハンマーが5回叩かれ、悲劇的に打ちのめされた第6番(2023年5月)、静けさと独特の音響が印象的だった「大地の歌」(2024年5月)などが特に記憶に残っている。

ノットは、東響音楽監督就任発表直後の(2012年10月)の筆者へのインタ

ビューで、プログラミングについて、「コンサートを通して物語ること、物事がぶつかり合う瞬間が好き」、「どのように組み合わせるかによって、まさに一つの旅にみなさんを誘うことができる。そのコンビネーションを見出すのが我々の仕事です」、「素敵なブラームスだった」とか、「ベートーヴェンが好き」で終わるような演奏会はしたくない。今までに聴いたことのあった作品でも、何か特別な意味を持って印象に残るようにしたい。記憶に残る体験をしてもらいたい」と語っていた。

では、ノットは、マーラーとどのような作品とを組み合わせたのであろうか。その組み合わせる作品から、ノットのマーラー観も見えてくるのではないだろうか。ノットが東響の演奏会で、マーラーとカップリングした作品について、以下にあげておく。

第1番とベルクの「室内協奏曲～ピアノとヴァイオリンと13管楽器のための」、第2番と細川俊夫の「嘆き」、第4番とアダムズの「ザ・チェアマン・ダンス」とドビュッシーの「遊戯」、第5番とラヴェルの「海原の小舟」、ベルクの「7つの初期の歌」、第6番とリゲティに「ムジカ・リチエルカータ」第2番、第7番とベルクの「管弦楽のための3つの小品」、第9番と



Symphony Lounge [シンフォニー・ラウンジ]

未来へひらかれた音楽 ～ジョナサン・ノットのマーラー

Gustav Mahler × Jonathan Nott

武満徹の「セレモニアル」、第10番(アダージョ)とブルックナーの交響曲第9番、「大地の歌」と武満徹の「鳥は星形の庭に降りる」、ベルクの演奏会用アリア「ぶどう酒」、「子供の魔法の角笛」「花の章」とラッヘンマンの「マイ・メロディーズ〜8本のホルンと管弦楽のための」である。

マーラーの交響曲第10番(アダージョ)とブルックナーの交響曲第9番という未完成の交響曲を並べたプログラム(これはこれでたいへん興味深かった)を除いて、ノットがマーラーの作品と組み合わせた音楽は、すべて、20世紀、21世紀に書かれたものであった。東響の演奏会でのノットは、よくあるようなモーツァルト&マーラーとか、シューベルト&マーラーとかいうプログラムを組むことはなかった。

ノットは、マーラーの作品にそれ以前の音楽よりも、未来の音楽を聴こうとしていたのではないだろうか。マーラーの音楽に未来への眼差しを感じ、未来へひらかれた音楽としてマーラーの交響曲をとらえているに違いない。

マーラーの交響曲第9番は「死」と結びつけて語られることが多い。アルマ・マーラーの「回想と手紙」での記述に

よって、マーラーが心臓疾患のため迫り来る死への恐怖に怯えながら作曲をしていたというイメージが広められた。評論家パウル・ベッカーはこの交響曲を「死が私に語ること」と呼び、レナード・バーンスタインも全曲冒頭の特徴的なリズムを「心臓の不整脈」と説明し、「死そのものを描いた」と述べた。

しかし、それとは逆に、晩年のマーラーは、ウィーン宮廷歌劇場時代以上に、ヨーロッパとアメリカを股にかけて、指揮、創作活動に精力的に取り組んでいたという説もある。マーラーは人一倍活力に満ちていたが、不治の感染症に罹り、突然未来を断ち切られてしまったという見解である。

ノットは、マーラーの交響曲第9番のスコアから「死」のイメージを引き出す。死に抗い、嘆き、悲しみ、最終的に死との闘いを終えるというストーリーを語る。それでは、死との闘いの先には何があるのだろうか？ 平安なのであろうか？ 暗闇なのであろうか？ 空虚なのであろうか？ あるいは、白くて明るい場所なのだろうか？ マーラーの交響曲を前述したようにとらえるノットだからこそ、筆者は、そこで彼が未来(それは、ノット自身の、東響の、そして聴衆の未来)へひらかれた音楽を聴かせてくれるような気がする。

Together With TSO

for Music Lovers

東京交響楽団サポート会員

©N. Ikegami

ご芳名（敬称略）

法人会員

プラチナ会員

株式会社エイチ・アイ・エス
株式会社ドワンゴ

ダイヤモンド会員

有限責任 あずさ監査法人
株式会社伊藤総合事務所
株式会社イノアックコーポレーション
株式会社インサイド・アウト
環境ステーション株式会社
株式会社すかいらくホールディングス
株式会社ティー ワイ リミテッド
株式会社日本財託
株式会社パソナグループ
株式会社雅致仁

ゴールド会員

株式会社青山メインランド
株式会社あ佳音
オリエンタル酵母工業株式会社
サントリーホールディングス株式会社
社会医療法人財団石心会
玉川学園・玉川大学
中外製薬株式会社
銚子屋油槽船株式会社
株式会社TFDコーポレーション
株式会社鉄鋼ビルディング
株式会社トーションパートナーズ
西松建設株式会社
株式会社NIPPO
株式会社日本M&Aセンター
ヒノキ新薬株式会社
司法書士法人ふなざき総合事務所
ミヨシ油脂株式会社
ヤマザキビスケット株式会社
税理士法人WATANABE

シルバー会員

株式会社NHKビジネスクリエイト
公益財団法人青梅佐藤財団
川崎信用金庫
松竹株式会社
月島食品工業株式会社
東京鐵鋼株式会社
司法書士法人村田事務所

ブロンズ会員

アーティスト ホールディングス株式会社
NPO法人かわさき市民アカデミー
株式会社シグマコミュニケーションズ
新宿村スタジオ
有限会社青史堂印刷
ニッシンエレクトロ株式会社
富士フィルムビジネス
イノベーションジャパン株式会社神奈川支社
前山歯科医院
株式会社LALLヒューマンホールディングス

賛助企業

政鬼運輸株式会社
山崎製パン株式会社

匿名2社



©N. Kogami

東京交響楽団へご支援いただいている皆様です。心より感謝申し上げます。

*新会員の方です。ありがとうございました(10月20日現在、五十音順)。

ご芳名 (敬称略)

個人会員

サークル50

伊藤 晴美 澤田 秀雄
伊藤 美樹 清水 尚彦
沖田 陽子 山口 積恵
鷺海 量明 山口 学
木暮 紀子 匿名 4名

サークル25

荒木 陽子 手塚 和彦
猪田 隆文 戸川 二郎
井上 孝昭 長瀬 雅史
岡野 平一 山本 誠一
加藤 英輔 匿名 2名
後藤 実

サークル10

天野 住和 高澤 美貴子
五十嵐 建平 高田 光官
井澤 菜緒子 高津 麻子
石川 晴依世 高野 琢一
井上 千恵子 高島 正行
岩田 新 田中 忍
内山 誠彦 谷川 啓
梅沢 麻衣 藤田 明雄
遠藤 秀和 谷藤 清
大城 明幹 角田 隆直
大崎 明子 中澤 守正
大島 純子 豊倉 祥
太田 具幸 成瀬 公男
大塚 浩 西谷 純一
岡 邦子 尾崎 美保子
尾崎 茂 片山 アーネスト M. 比嘉
小野 久子 片山 高志
片山 泰輔 尚弘
片山 尚弘 元
*金子 元 増田 久人
金田 好生 三浦 聡一郎
木質 賢市 岡田 睦美
菊池 光剛 正則 道子
木内 正則 高木 博
小林 光 健 京子
近藤 喜夫 森 健
斎藤 秀子 森田 昭彦
佐々木 真 利勝 昭典
野野 幹雄 清水 重雄
白井 恭一

山本 明
吉井 久美子

吉村 美恵子
米岡 修一
匿名 15名

フレンズ5

東 恭代 高際 比呂志
有江 純子 寺西 基之
石原 祥子 中尾 守
瀬田 伊織 中島 信男
大川 明彦 早川 利郎
大野 紀子 松信 正秀
奥秋 和彦 村山口 幸
加藤 政晴 山田 聡
河野 愛 山本 修
小林 義彦 吉田 良
佐藤 信一郎 匿名 4名
塩澤 誠司

フレンズ3

秋山 真一郎 古杉 絢
明田 重樹 小林 美智子
荒 洋一 佐久間 悦子
石澤 卓志 佐藤 健司
井上 聖恵 清水 良和
井上 聡 新保 弘也
大崎 純 杉田 忠明
大塚 透 鈴木 眞理子
大塚 啓一 関根 三善
大塚 展男 高坂 あゆみ
大塚 昌資 田中 美貴子
岡村 兵衛 田中 智広
*岡本 直毅 山田 崇明
奥田 篤 中村 元嗣
小澤 桂子 中村 幸雄
尾島 夕里 永井 洋一
小田切 修 西田 悦子
皆瀬 加香 根本 尚弘
加藤 由美子 野島 暢明
菊池 綾 林 美奈子
菊池 仲治 福田 昭夫
木鋪 万裕 藤田 朱
北川 洋 藤野 淑子
久保田 盛弘 藤森 唐臣
小木曾 孝 星 直樹

堀松 智巳
下橋 正典
三橋 拓郎
村田 希治
森山 健仁
山安 孝

山田 敏之
山 喜義
中 喜み
山 順
山 真紀子
山 真実
山 美紗惠
山 真理
匿名 25名

フレンズ1

■あ 磯野 浩
相野 寛
青野 道
赤坂 佳子
赤坂 節恵
赤坂 淳子
朝倉 文男
浅里 郁夫
安達 幸子
穴部 靖彦
阿部 裕一
新生 利昭
池田 弘毅
池田 紀政
石川 政幸
磯村 幸宏
井手 勉
伊藤 靖子
伊藤 宗功
伊藤 力雄
稲葉 順一
猪瀬 正
今井 紀夫
今井 邦男
今宮 美知子
今村 知子
今村 裕子
岩澤 順子
岩野 洋子
岩野 正昭
上田 重男
内海 誠
宇野 正芳
梅里 拓志
梅原 秀元

梅本 千枝子
江藤 祐子
大越 真志
大嶋 克義
大嶋 初彦
大嶋 裕美子
大塚 賀久
大友 英司
大友 由香
大畑 喜慶
大畑 幸吉
大森 節子
大八木 政顕
岡田 正道
岡田 美穂
岡田 明徳
岡野 勝利
*岡本 幾子
小川 徹
小川 知子
沖 和歌子
奥秋 亮子
奥泉 由美子
奥田 壮史
奥田 克彦
小倉 茂
尾崎 正美
小野 雅恵
小野 信也
小野 英樹
小野 純二

■か 甲斐 幸士
海藤 慶子
香月 大樹
方波 和雄
葛城 伸一
加藤 聖隆

Together With TSO

for Music Lovers

東京交響楽団サポート会員

©N.Ikegami

東京交響楽団へご支援いただいている皆様です。心より感謝申し上げます。

*新会員の方です。ありがとうございました(10月20日現在、五十音順)。

加藤川口川名川野川之上菅野菅野岸本北野北村木下木村木村清田久保田倉谷原小石小泉*小糸好土野河野国府国府*小寺小西小沼小林*小林小林小林小林小森小山近内近内後藤田■さ齊藤齊藤齊藤酒井坂本前刀佐久間佐々木佐々木佐藤

里加子善行康一安子裕美子上広和雄平裕子雅子真泰平亮平一正達央富士子伸一宏樹潔恵子博健治穂子太里美保周駿乃祐浮敬四郎恭二光一宏州浩優太クミオ智代子光一友史子美穂裕二■一宏ひろ子博有司典子タカ子慎明昭宏紀明通博基幸子

大助孜深雪美和子瞳俊郎宗太一朗俊也朋子宏明重夫崇和代一彦大啓次慶子啓介孝治隆之美和幸恵達穂名美あずみ■高木高野高橋高橋高橋高橋高松高森竹内竹内竹内竹内武尾竹腰下武田田邊

田淵田部井玉井千田塚館坪井鶴岡寺田遠山登原富川富田友近朝森豊島居忠治人秀成利明郁子通子啓介直昌紀晶淑子浮夫真陽子英昭信弘真有一成真澄■千鶴子和田雄和恵人博真明男秀範ひとみ慶子京子泰子

山田山本湯川吉江古岡古田吉富米田米谷米谷渡邊C.S.N.S.T.Saito 匿名 137 名

■栄誉会員
ヨーコ・ナガエ
チエスキーナ

追贈・相続ご寄付(敬称略)

竹内 容子
齊藤 公治メモリアル基金
牧野 孝子
岡橋 純男
岡橋 孜

法人定期会員

【定期演奏会】
東京コンテナ工業株式会社



特別後援会員制度のご案内

当楽団では公演の1営業日前までに「ご欠席の連絡をくださった方には、入場券代はご返し致しませんが、特別後援会員として1年間定期公演のプログラムにお名前を掲載させていただきます、当団主催公演の入場券を5%引き(TOKYO SYMPHONY チケットセンター扱い分のみ)にてお求めいただけます。お求めの際に特別後援会員であることをお申し出ください。なお、対象となる演奏会は当団が指定する主催公演です。

都築 豊 勝宏
坪井 洋一 雅一郎
東 由美子 山本 淳一
星 直樹 匿名 12 名
前田 泉 (敬称略)

ご連絡はTOKYO SYMPHONY チケットセンター
044-520-1511へお電話をお願いいたします。



<東京交響楽団サポート会員制度>

東京交響楽団は、一流指揮者の招聘やチャレンジングなプログラミングによる定期演奏会の充実、次世代を担う子供たちの育成等、これまで以上に積極的な演奏活動を展開し、音楽文化の向上に努めて参ります。
そのために不可欠な運営基盤の強化のため、広くご支援をお願いしております。みなさまのご入会を心よりお待ち申し上げております。

個人会員

フレンズ1

年額**1万円**
～29,999円

フレンズ3

年額**3万円**
～49,999円

フレンズ5

年額**5万円**
～99,999円

サークル10

年額**10万円**
～249,999円

サークル25

年額**25万円**
～499,999円

サークル50

年額**50万円**～

法人会員

東京交響楽団とのパートナーシップは、御社のイメージアップにつながるだけでなく、従業員の皆様の福利厚生にもつながります。

ブロンズ

年額**10万円**～

シルバー

年額**30万円**～

ゴールド

年額**50万円**～

ダイヤモンド

年額**100万円**～

プラチナ

年額**1000万円**～

会員特典

詳細はHP、
又はお電話でお問合せ下さい

	法人会員	サークル 会員	フレンズ5	フレンズ3	フレンズ1
主催公演へご案内	○	○			
ゲネプロ見学会(年3回以上)	○	○	○	○	
リハーサル見学会(年3回以上)	○	○	○	○	○
ご芳名掲載	○	○	○	○	○
主催公演チケット先行予約 ^{*1}	○	○	○	○	○
公演チケットをご優待価格にてご案内 ^{*2}	○	○	○	○	○

^{*1} 一部対象外もございます。^{*2} 東京交響楽団の主催公演およびミュージアム川崎シンフォニーホール主催公演が対象です。一部対象外もございます。

税制上の優遇措置について

東京交響楽団は内閣府より公益財団法人の認定を受けており、当楽団への御寄附には税制上の優遇措置が施されます。

◎個人の場合:「寄附金額から2,000円引いた金額」の40%分³⁾について、税金(所得税・個人住民税)を控除されます。

また相続税にも控除が適用されます。

◎法人の場合:「損金算入限度額」が一定の算式に従い、拡大されます。⁴⁾

³⁾但し、各該当法令で定められた限度があります。

その他、マッチングギフトやご遺贈、相続ご寄付についてもご案内させていただいております。

公式サイトからクレジットカードでサポート会員にご入会(ご寄付)いただけます。

<http://tokyosymphony.jp/support/procedures.html>



サポート会員へのご入会・お問合せ TEL 044-520-1518

公益財団法人東京交響楽団川崎オフィス 支援開拓本部 E-mail supporters@tokyosymphony.com

Meet the Musicians

楽団員紹介

オーケストラの一番後ろから演奏に華を添えるパーカショニスト

武山 芳史

TAKEYAMA Yoshifumi

[ティンパニ&打楽器奏者]2011年入団

趣味:ご当地ラーメンを食べること



© N. Ikegami

楽器を始めたきっかけ

中学校はバレエ部、高校は剣道部と音楽に関係ない学生生活を送っていましたが、ひょんなことから学校の友達に誘われバンドを組むこととなり、小学生の頃2年ほど習っていた経験からドラムを担当することになりました。文化祭で演奏しただけでしたが、ステージ上での演奏は面白く、人前で演奏する喜びに触れ、お客様側(聴く側)ではなく、演奏者側に立ちたいと思うようになり、高校2年生の春に音楽大学受験を決意しました。音楽大学入学を目指したのは演奏者になるのであればオーケストラ奏者になりたいという気持ちが強くあったからです。小学校の音楽教師だった母が家でクラシックCDをよく流していたのでその影響もあるかもしれません。

東京交響楽団に入団するまで

洗足学園短期大学音楽学科卒業後、とにかく朝から晩まで練習し、師匠から紹介された打楽器アンサンブルの楽器運搬やトラック運転のアルバイト、学校での演奏指導をしながら演奏家を目指していました。エキストラとしてオーケストラ等での演奏経験や、そこで生まれた会話が学ぶことも多く、当時アルバイトをしていた打楽器アンサンブルには東京交響楽団の元楽団員の方もいて、様々な出会いが結びついていたのだと感じています。その後25歳でシエナ・ウインド・オーケストラに入団(2005-2011年)し、東京交響楽団に

入団しました。演奏する喜びだけでなく、舞台上で、オーケストラの中で、演奏を聴けることがとても楽しいです。

打楽器の中で好きな楽器は

音の長さをコントロールできる合わせシンバルが好きです。打楽器は音を出した途端に減衰するものが多いのですが、ティンパニ、シンバル、トライアングル等は比較的減衰が緩やかで、特に合わせシンバルは2枚の楽器を接触させる時間や響きをコントロールすることで、スタッカートやテヌートを表現できるのが理由です。また、これは打楽器全般言えることですが、1番後ろにいとアンサンブルが難しく、指揮者と各セクションと物理的な距離があるので、視覚・聴覚をフルに使い、いかに時差を埋めながら演奏できるかが難しさでもあり、面白さでもあるように思います。

食えることが好き

特にラーメンが好きです(醤油ラーメン!)。たまに料理して、家族と一緒に食事する時間が楽しいです。作るときはYouTubeを参考にすることが多く、中華鍋をすごい火力で振る動画などに触発され、中華鍋を買ってしまいました。使うのはチャーハン、野菜炒めくらいですが…。(笑)



バンドを組んでいた
高校生時代

インタビュー:事務局

NEWS & TOPICS

2026/27シーズン定期会員券いよいよ発売

2026年4月、東京交響楽団は創立80周年を迎え、新たに第4代音楽監督ロレンツォ・ヴィオッティが就任いたします。

定期会員券がオンラインでもご購入いただけるようになりました！

U25定期会員券 25歳以下の方は定期会員券定価の50%引きでご購入いただけます。

— 次期音楽監督ロレンツォ・ヴィオッティ
音楽監督就任披露公演 —

2026年
5/16(土) 第740回 定期演奏会
18時 サントリーホール
17(日) 名曲全集第217回
14時 ミュージック川崎シンフォニーホール
指揮：ロレンツォ・ヴィオッティ

■ベートーヴェン：交響曲 第1番
マーラー：交響曲 第1番「巨人」

2026年
5/23(土) 川崎定期演奏会 第105回
14時 ミュージック川崎シンフォニーホール
24(日) 特別演奏会
14時 ミュージック川崎シンフォニーホール
指揮：ロレンツォ・ヴィオッティ
ソプラノ：マリーナ・レベカ 合唱：東響コーラス

■R.シュトラウス：4つの最後の歌
ラヴェル：バレエ音楽「ダフニスとクロエ」

— 東京交響楽団創立
80周年記念公演 —

2026年
9/19(土) 第745回 定期演奏会
18時 サントリーホール
指揮：ロレンツォ・ヴィオッティ
合唱：東響コーラス ほか

■フランツ・シュミット：オラトリオ
「7つの封印の書」

定期演奏会・川崎定期演奏会
東京オペラシティシリーズ

東響会員先行販売
2025年11/27(木)

詳細はこちらから

オンライン先行販売
12/1(月)

一般販売
12/4(木)



子ども
無料招待！

12/22ロイヤル・バンコク交響楽団&東京交響楽団
フレンドシップ・コンサートwith新妻聖子

文化庁 劇場・音楽堂等における子供舞台
芸術鑑賞体験支援事業として、12/22「ロ
イヤル・バンコク交響楽団&東京交響楽団
フレンドシップ・コンサートwith新妻聖子」
に18歳以下のための無料鑑賞席を設け、
ご招待いたします。

応募資格

18歳以下
(2007年4月2日以降生まれ)の方
2名様まで(未就学児不可)

詳細はこちらから

同伴者

チケット
半額

S席 ¥8,000 ⇒ ¥4,000
A席 ¥6,000 ⇒ ¥3,000
B席 ¥4,000 ⇒ ¥2,000



(公演詳細はP28をご覧ください)

楽 団 人 事

退 任

2025年10月31日付

笹 沼 樹 SASANUMA Tatsuki

[客演首席チェロ奏者]

客演首席チェロ奏者としての
契約満了につき退任いたしました。



©T.Tatradate

新 入 団

2025年11月1日付

務 川 広 貴 MUKAWA Hiroki

[クラリネット奏者]

・Report 2025年9月13日(土)

マレーシア・フィルハーモニー定期公演 ～宇宙のシンフォニー～



ペトロナス・フィルハーモニックホールで、マレーシア・フィルハーモニー管弦楽団(MPO)の演奏会に当団から26名が参加し、MPO&TSO合同オーケストラとして演奏しました。

指揮は、今年1月よりMPOの第5代目音楽監督に就任した広上淳一さんです。オルガニストの大木麻理さんをソリストに迎えてのバーバー：「祝典トッカータ」と、それぞれのオーケストラのコンサートマスター(P.デニス、小林吉成)がソリストを務めてJ.S.バッハの2台のヴァイオリンのための協奏曲 二短調を演奏。ホルスト：「惑星」で大宇宙への旅へ！アンコールの「スター・ウォーズ」のテーマが鳴ると会場からは大きな歓声が！双方のオーケストラの良いところを存分に味わうことが出来る、とても素晴らしい公演となりました。



NEXT PROGRAM

12/2 (火) 東京オペラシティシリーズ 第149回
19:00 東京オペラシティコンサートホール

指揮:原田慶太楼
ピアノ:小林愛実

グリーグ:パール・ギュント 第1組曲
グリーグ:ピアノ協奏曲 イ短調
芥川也寸志:交響曲 第1番

S¥7,500 A¥6,500 B¥4,500 C¥3,500



©MASATOSHI YAMASHIRO

12/13 (土) 第737回 定期演奏会
18:00 サントリーホール

指揮:ロス・ジェミー・コリンズ
ヴァイオリン:大谷康子

《大谷康子 デビュー 50周年記念》
マルサリス:ヴァイオリン協奏曲 二調
コーブランド:交響曲 第3番

S¥7,500 A¥6,500 B¥5,500 C¥4,500 P¥3,000



© Milka Takala

12/22 (月) ロイヤル・バンコク交響楽団&東京交響楽団
フレンドシップ・コンサートwith新妻聖子
19:00 ミューザ川崎シンフォニーホール

指揮:大友直人 ヴォーカル:新妻聖子

管弦楽:ロイヤル・バンコク交響楽団&東京交響楽団 合同オーケストラ

[第1部] 芥川也寸志:交響管弦楽のための音楽から 第2楽章
サン＝サーンス:交響曲 第3番 オルガン付き〜第Ⅱ部 ほか
[第2部] サウンド・オブ・ミュージック・メドレー
アンダーソン:クリスマスフェスティバル ほか

S¥8,000 A¥6,000 B¥4,000



© Rowland Kristina

12/28 (日) 「第九」2025 14:00 サントリーホール
29 (月) 「第九」2025 14:00 サントリーホール

指揮:ジョナサン・ノット
ソプラノ:盛田麻央
メゾソプラノ:杉山由紀
テノール:村上公太
バスバリトン:河野鉄平

合唱:東響コーラス
合唱指揮:三澤洋史

ベートーヴェン:交響曲 第9番「合唱付」

SSシングル¥15,000 SSペア¥26,000 S¥12,000
A¥9,000 B¥6,000 C¥4,000

TOKYO SYMPHONY チケットセンター 044-520-1511(平日10:00~18:00/土日祝休)



3/29 (日) 第145回 新潟定期演奏会
17:00 リゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館 コンサートホール

指揮:原田慶太楼
カウンターテナー:彌勒忠史
合唱:にいがた東響コーラス
合唱指揮:根本卓也

コーブランド:アメリカの古い歌[第1集]
バーンスタイン:チチェスター詩篇
シヨスタコーヴィチ:交響曲 第5番

S¥7,500 A¥6,000 B¥4,500 C¥3,000 D¥2,000

リゅーとぴあチケット専用ダイヤル 025-224-5521(11:00~19:00/休館日除く)



©MASATOSHI YAMASHIRO

次回の新潟
定期演奏会は...

音楽監督ジョナサン・ノット×東京交響楽団 録音ラインナップ



ブルックナー：交響曲第8番

録音：2025年4月5日サントリーホール、4月6日ミュゼザ川崎シンフォニーホールにてライブ収録



ベートーヴェン：交響曲第3番&第8番

録音：2017年12月2日サントリーホール(第3番)、2025年7月26日ミュゼザ川崎シンフォニーホール(第8番)にてライブ収録

ブラームス： 交響曲第3番、 マーラー：花の章

録音：2022年5月14日東京オペラシティコンサートホール、5月15日ミュゼザ川崎シンフォニーホールにてライブ収録



ブラームス： 交響曲第2番

録音：2023年7月15日ミュゼザ川崎シンフォニーホール、7月16日サントリーホールにてライブ収録



ベートーヴェン：交響曲第7番「運命」

録音：2022年11月26日サントリーホール、11月27日ミュゼザ川崎シンフォニーホール(第2番)、2024年12月7日サントリーホール、12月8日ミュゼザ川崎シンフォニーホール(第5番)にてライブ収録



ブルックナー： 交響曲第7番 (ノーヴァク版)

録音：2024年7月20日サントリーホールにてライブ収録



ベートーヴェン： 交響曲第6番「田園」、 交響曲第1番

録音：2019年7月27日ミュゼザ川崎シンフォニーホール(第1番)、2023年11月11日サントリーホール(第6番)にてライブ収録



ブルックナー： 交響曲第2番 (1877年 ノーヴァク版 第2稿)

録音：2022年10月22日ミュゼザ川崎シンフォニーホール、10月23日サントリーホールにてライブ収録



マーラー： 交響曲第6番 「悲劇的」

録音：2023年5月20日サントリーホール、5月21日ミュゼザ川崎シンフォニーホールにてライブ収録



ブルックナー： 交響曲第1番 (1877年リンツ稿 ノーヴァク版)

録音：2023年10月21日東京オペラシティコンサートホールにてライブ収録



チャイコフスキー： 交響曲第4番

録音：2023年7月22日ミュゼザ川崎シンフォニーホールにてライブ収録



チャイコフスキー： 交響曲第3番 「ボロランド」

録音：2023年7月22日ミュゼザ川崎シンフォニーホールにてライブ収録



ショスタコーヴィチ： 交響曲第4番

録音：2022年10月16日ミュゼザ川崎シンフォニーホールにてライブ収録



マーラー： 交響曲第5番

録音：2022年7月16日サントリーホール、7月17日リッパとびあ 新都市民芸術文化会館コンサートホールにてライブ収録



ブルックナー： 交響曲第4番 「ロマンティック」

録音：2021年10月16日サントリーホールにてライブ収録



マーラー： 交響曲第1番「巨人」

録音：2021年5月27日ミュゼザ川崎シンフォニーホールにてライブ収録



ベートーヴェン： 交響曲第9番 「合唱付」

録音：2019年12月28-29日サントリーホールにてライブ収録



R.シュトラウス： 英雄の生涯・ 死と浄化(変容)

録音：2018年12月15日サントリーホール、12月16日ミュゼザ川崎シンフォニーホール(英雄の生涯)、2019年7月18-19日ミュゼザ川崎シンフォニーホール(死と浄化)にてライブ収録



ラフマニノフ： 交響曲第2番

録音：2018年11月3日サントリーホールにてライブ収録



ショスタコーヴィチ： 交響曲第5番

録音：2019年5月25日サントリーホールにてライブ収録



ストラヴィンスキー： 春の祭典、 シェンペルク： 浄められた夜

録音：2017年7月22日ミュゼザ川崎シンフォニーホールにてライブ収録



マーラー： 交響曲第10番、 ブルックナー： 交響曲第9番

録音：2018年4月13日ミュゼザ川崎シンフォニーホール、4月14日サントリーホールにてライブ収録



ショスタコーヴィチ： 交響曲第10番

録音：2016年10月15日サントリーホールにてライブ収録



ブルックナー： 交響曲第5番

録音：2017年5月20-21日ミュゼザ川崎シンフォニーホールにてライブ収録



ブルックナー： 交響曲第8番

録音：2016年7月16日サントリーホールにてライブ収録



東京交響楽団

川崎市フランチャイズオーケストラ
新潟市準フランチャイズオーケストラ



公式サイト <https://tokyosymphony.jp>



1946年、東宝交響楽団として創立。1951年に東京交響楽団に改称し、現在に至る。現代音楽の初演などにより、文部大臣賞、毎日芸術賞、文化庁芸術作品賞、サントリー音楽賞、川崎市文化賞等を受賞。サントリーホール、ミュゼ川崎シンフォニーホール、東京オペラシティコンサートホールで主催公演を行うほか、川崎市、新潟市などの行政と提携し、コンサートやアウトリーチを積極的に展開、教育プログラム「こども定期演奏会」10歳からのオーケストラも注目されている。また、新国立劇場のレギュラーオーケストラとして毎年オペラ・バレエ公演を担当。海外公演もウィーン楽友協会をはじめ59都市83公演を開催。2024年より、アジア全体の音楽文化の向上を図る「東京交響楽団アジア・プロジェクト」を展開している。さらに日本のオーケストラとして初の音楽・動画配信サブスクリプションサービスや、VRオーケストラ、電子チケットの導入などITへの取組みも音楽界をリードしており、2020年ニコニコ生放送でライブ配信した無観客演奏会は約20万人が視聴、2022年12月には史上最多45カメラによる《第九》公演を配信し注目を集めた。

近年は、音楽監督ジョナサン・ノットとともに、日本のオーケストラ界を牽引する存在として注目を集めている。特に、2022年よりスタートした「R.シュトラウス コンサートオペラシリーズ」は、音楽の友誌「コンサート・ベストテン」において、第1弾《サロメ》(2022年)が第2位、第2弾《エレクトラ》(2023年)が第1位に選出。2024年12月の第3弾《ばらの騎士》も大絶賛を博した。

桂冠指揮者にユベール・スダーン、正指揮者に原田慶太楼、名誉客演指揮者に大友直人、永久名誉音楽監督に秋山和慶を擁する。

2026年4月より第4代音楽監督としてロレンツォ・ヴィオッティが就任予定。

The Tokyo Symphony Orchestra, together with music director Jonathan Nott, has been attracting attention as a leader in the Japanese orchestra world. Elektra in Concert Style(2023) won the 1st prize in the "Top 10 Concert 2023" following the 2nd prize of Salome in Concert Style(2022) on Ongaku no Tomo magazine. Der Rosenkavalier in Concert Style (2024) concluded the finale of R. Strauss project with a great acclaim. They won the Best Recording of Music Pen club Japan Award for Opera & Orchestra category and Tokyo Symphony Chorus, Orchestra's amateur chorus also won the prize for Chamber & Chorus category.

Highlights of past seasons with Mo. Nott include Symphony 9 by Beethoven filmed by 45 cameras, the largest record of the orchestra history live-streamed nationwide, Gurre-Lieder by Schoenberg celebrating 15th Anniversary of Muza Kawasaki Symphony Hall, TSO's home and Mozart's Da Ponte Operas in concert style. In March 2020, the live-streamed concert without audience on nico-nico Live Channel which attracted more than 200,000 viewers nationwide, has been a mega-hit in Japan.

Outside of Japan, the orchestra has performed 83 concerts in 59 cities since 1976. Tokyo Symphony Orchestra was founded in 1946 as Toho Symphony Orchestra, and changed its name to Tokyo Symphony Orchestra in April 1951, and has a reputation for giving first performances of a number of contemporary music and opera, and has been regularly performing various operas and ballets at the New National Opera Theatre, Tokyo since its opening in 1997.

Mr.Viotti will become the 4th Music Director from April 2026.

マエストロ・シート

【5組10名の小・中・高校生無料招待】



NICO NICO
TOKYO SYMPHONY
ニコニコ東京交響楽団



音楽・動画配信サイト
[TSO MUSIC & VIDEO
SUBSCRIPTION]
1か月550円(税込)



このプログラムは見やすさ・読みやすさに配慮したユニバーサル・デザインフォントを使用しております。

TOKYO SYMPHONY ORCHESTRA / NEWALLY CONCERT ORCHESTRA
Symphony

Symphony 2025年(令和7年)11月号[非売品]

発行 公益財団法人東京交響楽団 〒169-0073 東京都新宿区百人町2-23-5 TEL 03-3362-6764
<川崎オフィス> 〒122-8554 神奈川県川崎市幸区大宮町1310
ミュゼ川崎セントラルタワー 5階 TEL 044-520-1518

Art Direction & Design : Be.To Bears 印刷 : NHKビジネススクレイト